

北光丸(漁業調査船)



若鷹丸(漁業調査船)



蒼鷹丸(漁業調査船)



俊鷹丸(漁業調査船)



こたか丸(漁業調査船)



陽光丸(漁業調査船)



たか丸(漁業調査船)



耕洋丸(漁業練習船)



天鷹丸(漁業練習船)



【理事長からメッセージ】

国立研究開発法人水産研究・教育機構は、古くは、その前身を1897年の農商務省水産検査場、水産講習所試験研究部が設置されたことに遡れます。本年で125周年を迎えます。規模歴史ともに世界にまれに見る水産に特化した研究・教育、そして社会実証まで行う機関です。

先人達が水産日本の屋台骨を支えてきた自負を持っています。

独立行政法人としては、平成13年に水産庁所属の9研究所を統合した、水産総合研究センターとして発足以来、海洋水産資源開発センター、日本栽培漁業協会、さけ・ます資源管理センター、水産大学校と順次統合し現在の体制になりました。

当機構は、水産物の安定供給と水産業の健全な発展に貢献するため、水産分野における研究開発と人材育成を推進しその成果を最大化し社会への還元を進めることを基本理念として活動を続けております。

令和3年度から7年度までの5ヵ年を期間として、農林水産大臣から新たな中長期目標が示され、法人として第5期中長期計画を策定し活動しております。中長期目標および計画に基づき、研究課題の重点化等による研究開発成果の最大化、人材育成業務における教育内容の高度化に取り組むとともに両業務の相乗効果の発揮を図り、業務を効果的かつ効率的に推進するために最適な組織体制とし、科学技術研究開発を基盤として、日本の水産の持続的な発展を通して、水産業を成長産業化して未来を造り上げる夢と誇りを持ち続け、それを具現化して水産日本の復活に貢献していきます。



なかやま いちろう  
理事長 中山 一郎

国立研究開発法人水産研究・教育機構 〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ100 6F  
TEL: 045-277-0120 (代表) FAX: 045-277-0013

メールでのお問い合わせ [www@fra.affrc.go.jp](mailto:www@fra.affrc.go.jp)

ホームページ <http://www.fra.affrc.go.jp>

Facebookもチェック <http://www.facebook.com/fra.go.jp>

国立研究開発法人水産研究・教育機構 要覧 2022/1/14 更新



国立研究開発法人

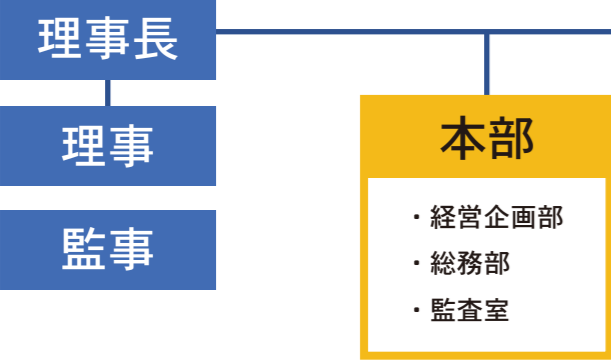
水産研究・教育機構

Japan Fisheries Research and Education Agency





# 組織図 新体制



## 水産資源研究所（横浜）

- 水産資源研究センター
  - 研究企画部 底魚資源部 浮魚資源部
  - 広域性資源部 海洋環境部
  - 社会・生態系システム部
  - 漁業情報解析部 生命情報解析部
- さけます部門
  - 札幌拠点 資源生態部 資源増殖部
- 企画調整部門
  - 図書資料館
- 管理部門
  - 業務推進課 管理課
  - 釧路拠点 塩釜拠点 新潟拠点 清水拠点

- 水産資源研究センター：水産資源の資源評価、管理及び生態、それらを取り巻く海洋環境、水産システムに係る研究開発を行います。
- さけます部門：遡河性さけます類に係る研究開発及びさけます類の個体群の維持のためのふ化放流を行います。
- 企画調整部門：研究開発に係る企画立案、総合調整及び推進、関係機関等の連携協力等を行います。
- 管理部門：研究所の運営に係る連絡調整、研究所の管理、各部門・センターその他の研究所が管理する施設及び船舶における研究開発及び業務運営に対する支援等を行います。

## 水産技術研究所（長崎）

- 養殖部門
  - まぐろ養殖部 シラスウナギ生産部
  - 育種部 生理機能部 生産技術部
  - 病理部 養殖経営・経済室
- 環境・応用部門
  - 水産工学部 沿岸生態システム部
  - 環境保全部 水産物応用開発部
- 企画調整部門
  - 標本管理室 山口連携室
- 管理部門
  - 業務推進課 管理課 神栖拠点 廿日市拠点 南勢拠点

- 養殖部門：水産生物の種苗生産及び養殖に係る研究開発を行います。
- 環境・応用部門：水産土木、漁業・養殖業の生産技術、沿岸・陸水域における生態系、漁場環境の管理及び保全並びに水産物の利用に係る研究開発を行います。
- 企画調整部門：研究開発に係る企画立案、総合調整及び推進、関係機関等の連携協力等を行います。
- 管理部門：研究所の運営に係る連絡調整、研究所の管理、各部門・センターその他の研究所が管理する施設及び船舶における研究開発及び業務運営に対する支援等を行います。

## 開発調査センター（横浜）

- 漁業第一グループ
- 漁業第二グループ
- 漁業第三グループ
- 養殖システムグループ
- 実証化企画室
- 開発業務課

- 漁業第一グループ：遠洋漁業及び沖合漁業における海洋水産資源の開発及び利用の合理化に係る開発調査等を行います。
- 漁業第二グループ：遠洋漁業及び沖合漁業における新たな漁業生産方式の企業化に係る開発調査等を行います。
- 漁業第三グループ：漁業生産から流通までも包括したシステムに係る開発調査等を行います。
- 養殖システムグループ：養殖に係る新たなシステムの構築に係る開発調査を行います。
- 実証化企画室：水産業の成長産業化のための実証化調査の企画・推進及び成果の普及に関する業務を行います。
- 開発業務課：開発調査センターの管理、開発調査に係る予算、決算及び会計、各グループの業務運営に対する支援並びに開発調査に係る漁獲物の販売に関する業務等を行います。

## 水産大学校（下関）

- 水産流通経営学科
- 海洋生産管理学科
- 海洋機械工学科
- 食品科学科
- 生物生産学科
- 水産学研究科
- 実習教育センター
- 学生部
- 校務部

- 水産流通経営学科：水産業に関わる流通・経営分野と地域振興について、現場に根ざした実践的な教育と研究を行います。
- 海洋生産管理学科：水産資源の持続的利用に寄与する資源管理と船舶の安全航行に関する教育と研究を行います。
- 海洋機械工学科：AI、ロボット等の先端技術の水産技術への適用ならびに省エネほか環境に配慮した船用機械に関する教育と研究を行います。
- 食品科学科：水産食品の健康増進機能や安全確保、さらには水産物の高度利用技術についての教育と研究を行います。
- 生物生産学科：自然環境との調和を図った水産動植物の増養殖に必要な基礎学理から最新の応用技術までの総合的な教育と研究を行います。
- 水産学研究科：本科又は大学で身に付けた専門知識と技術を基盤に、さらに専門性の高い水産に関わる知識と研究手法に関する教育と研究を行います。
- 実習教育センター：2隻の漁業練習船及び実験実習場を利用した実学を重視した教育を支援します。
- 学生部：修学支援、学生の福利の増進や学生の募集、入学試験及び就職に関する業務を行います。
- 校務部：水産大学校の運営に係る管理ならびに企画、課題の進行管理等を行います。

